

近年辛抱強くない大人が増えているようです。

車の運転のトラブルも非常に目立ち、同じような報道をよく耳にします。

原因は様々あるようですが、ある専門家は、子供の頃に我慢や抑圧を受けずに育つと前頭前野が未発達となり、キレやすくなる。と言っていますが、

逆に、甘やかされて育った子供ではない。という専門家もいます。抑圧され常に我慢を強いられた子が爆発しやすい傾向にある。との事です。

どちらが正しいのか私にはわかりません。しかし社会人として辛抱が求められるシーンは多かれ少なかれ誰にでも訪れます。

仕事をすることで辛抱は欠かせないのです

(担当している中に嫌なお客様がいる。 思ったよりも楽しい仕事では無かった。
こんなにキツイ仕事だとは思わなかった。 一緒に働く人が自分に合わない)

このように感じる時、すぐに退職してしまうような極端に対応力が低い事はあまり無いかもしれませんが、辛抱が効かないと仕事内容、会社、同僚に不平不満をぶつけたり、誰かの陰口を広めてしまったりマイナスの行動を起してしまいます。

特に人間関係においては、直接キレて口論となる事はそうそうありませんが自分が気に入らない相手のマイナスイメージを広散してしまう事は無意識にやってしまう危険があります。

以前、言葉の力について書きましたが、聞いた人が元気になる言葉、やる気が出る言葉だけを発信するために意識したいものです。意識的に良い所を探すのを忘れないですね。

これは指導者は特に意識を強く持たなくてはなりません。

人を育てるには辛抱強くある事が求められるシーンが多いからですね。

(果た成果が出たのか？ やる気あるのか？
何故教えた通りにやらないんだ？ 何度教えたらわかるんだ!!
何もわかっていないくせに生意気な!!)

と、1日の中で叫んだ事のある店長。マネージャーも少くはないのではあるまいか？

特に反抗的だったりすると、本日も溜まることでしょう。

それでも粘り強く指導をして下さっている事に深く感謝します。

私達は愛の店宣言をしています。

既に私たちの会社の理想を高く掲げ、世間に公表しているのです。

それを表面的なものでも終わらせない為には指導する場面で毎日発揮していきたいと思っております。

聖書には愛の定義が書かれています。(愛は何か?と思っ人は一度調べてみて下さい)
その定義とは「愛は辛抱強く...」と言うフレーズから始まります。

指導者も、働き手も、お互いに辛抱強く接しながら働く事で愛の店に近付けるのではないのでしょうか?

現場の実務もそうです。毎日、毎月、同じ単調な仕事を繰り返している事に意味はあるのか?
こんな事を繰り返す仕事していても先が見えなくて不安に感じる...。と思っている方はいるでしょうか?
特に入社後、2、3年くらいの方がそう感じるかもしれません。
先日読んだ本に、この内容が書かれていました。

～仕事とは、小さなことの積み重ね～

小学校の校長先の朝会で話した内容でその先生の友達は、リゾートホテルの料理長を務めている
そうなのですが、調理師見習いの頃の事は皿洗い、野菜の洗浄、そしてトリスと皿に盛り事でした。決られた分量を
秤に乗せ、毎日何百人分のトリスを盛るような仕事を一年二年と続け三年目になり、さすがに嫌気がさしたそうです。
「僕はいつまでトリスを盛り続けるのだろう。この先もずっとトリス担当なのかな...」そう思い始めた頃料理長が声をかけて
きました。「〇〇君、今日は私とトリスを盛りようか」と。料理長は早速トリスを盛り始めました。秤は使いませんでした。
十四盛り、テラリに並べました。「〇〇君、私が盛ったこの十四のトリスを全て量ってみなさい」量ってみると、全てほぼ
規定通りの量でした。「〇〇君、君が今やっている仕事は私も含めて皆が経験している事なんだ。私も君くらいの
時、何年もこの作業をさせられてかなり辛い時もあったよ。この道を諦めようと思った事も何回もある。だけどどんな時は
この道に進むと決意した時を思い出しごらん。自分は何故料理長を目指したのか。その気持ちを思い出した時、
私は自分を信じるようになった。だから今がある」

料理長のその言葉にとっても衝撃を受けた彼は、今までの辛い気持ちが吹き飛んだそうです。
そして、その日と境に彼は幾度も幾度もトリスを盛り続け、数年後に新しい仕事を任される様になり、
更に頑張り続けて遂に料理長に昇格した。彼を励ましてくれた料理長は引退後に亡くなられたそうです。
その料理長の「部下を思う気持ち」は、今でも彼の中で生き続けているそうです。そして彼自身もその思いを
受け継ぎ、部下の育成に日々励んでいるそうです。

仕事をする上で、何故この道を選んだのか? 何の為に仕事しているのか? という使命感や、決意を胸に、
粘り強く継続していく大切さが伝わってきます。

目の前の仕事がいかに単純に思えても、更に熟練する為に日々真剣に努力して倦まず怠まず
取り組むと続けるという事です。次の仕事を任せられる準備が整っていれば、新しい仕事も任せられる様に
更に辛抱は技術の習得のみならず、忍耐力もつきます。

2019.10.10

NO3

冒頭で、やさしい大人の事を書きましたが、このような訓練を積み重ねて、ちょっとやそとの事で取り乱したりしない、厚みと深みのある人格が形成されていくのではないのでしょうか？
しかし、訓練を継続して積み重ね、と言っても単調な仕事を重要に感じず、何も考えずに毎日仕事をしていたら、10年経っても秤りにかけないとライスが盛れない人です。
今している仕事の意味を考え、投げたLIFEにまず辛抱して修得する。更に、頭を使い効率良く、正確にできるゆえ熱意を持って取り組み、熟練してください。
そうして得たものが経験という財産となり、信頼を勝ち得るのです。
そのような努力は周りの人へも良い影響を与えます
辛抱を重ねて接していた事で相手の態度に変化が生じるかもしれません。
6月の通信でも会社の理想の一つとして、血の通ったサービスを提供したい、と書きましたが、
その為には 『人を育てる辛抱』 『粘り強く仕事に向き合う辛抱』 『人間関係を良好にする辛抱』
が欠かせません。